

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 (ユニットえびす)		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様のADLの状況(歩行など)に合わせ徹底した見守りに努めている ・入居者様の得意な事をリハビリを兼ねた作業・レクリエーションを実施している ・入居者様のちょっとした悩みや不満に感じられている事などによく耳を傾けている(職員全員で傾聴という部分では特に取り組んでいると感じる) ・安眠・安楽への援助を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは温泉旅館の立ち並ぶ場所に立地しており、下階は飲食店であったりと観光と商業の賑わいの一角にある。職員は利用者の思いや理想を日々の会話の中から聞き出せるような雰囲気づくりに力をいれている。得た情報は、業務日誌、個人記録に記載され、介護計画に反映されやすくなっている。各書類は連動されており、忙しい業務の中でも記入しやすい仕組みができています。職員も介護計画の目標の意義について理解し支援及び記録を行っている。職員は18名の利用者の状況をしっかり把握できているため、見守り支援を中心に、利用者が落ち着く対応の的確に行っている。ホーム内の雰囲気も穏やかである。地域とも馴染みの関係で、日頃より地域住民の訪問が多く開放的なホームである。まさにグループホームに求められている地域密着型の支援となっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ホームの基本理念は玄関や事務所に提示しておりいつでも職員は確認できる 職員入社後に座学の時間を設け、一番最初に説明を行っている 業務中理念に沿って不適切時は随時指導をしている 	<p>基本理念「自分らしく和やかに楽しく。」は、いつでも確認できるよう玄関や事務所に掲示している。新人教育では理念の座学研修会を行い周知させている。職員は理念に基づき、利用者らしく、思うように生活できるように希望を具体的に計画し実施している。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 近隣への散歩外出時、職員・入居者様共にご近所の方へ挨拶を交わす(顔見知りになる) ホームが自治会に入り、回覧板など回してもらい地域活動に参加又は情報を得ている 近所のお店(美容室・買物等)を利用している ホームの大きな行事(夏祭・餅つき)への参加のお誘いや地域行事へホームとして参加している 	<p>自治会に加入しており、敬老会やイベントの手伝いなど自治会長とも頻りに交流がある。隣接の旅館の計らいで大衆演劇の鑑賞をしている。事業所の様々なイベントに自治会の方々や近所の子供会が参加するなど、地域の一員として交流を深める関係である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>特別な活動はないが、地域での行事参加等を通し、職員の対応や入居者様の自然な振舞い等を見て頂く事で理解を深めて頂いていると考えて接している</p>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>ミーティング時に会議の時に上がった意見等の伝達やそれに対する指導がある</p>	<p>今年度は年4回規定のメンバーで開催され、利用者の近況報告、行事や訓練、研修、外部評価の報告が行われている。民生委員の見学会実施や食事形態についての意見、地域高齢者の情報などの意見交換の場になっている。但し定期的な開催に至っていない。</p>	<p>実施されている運営推進会議は地域の情報交換などに有効な場になっており、定期的な開催を行うことで一層、双方向に情報を活かすことができ相乗効果が期待できるため年6回の開催を期待したい。</p>
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>入居されてからも、ホーム側から依頼して様子を見に来て頂いたり、地域包括支援センター職員の方から訪問があったりと、連携を取りながら協力を頂いている</p>	<p>雲仙市グループホーム連絡協議会及び島原半島広域連絡協議会の研修会で参加している行政職員と意見交換している。包括センターとも連携も取れており新規入居者の紹介後も情報を共有できる関係にあり、日頃から協力体制ができています。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 施錠については行われていない その方に応じたケアを御家族様に相談しながら最善の取り組みを行っている 	<p>身体拘束をしないケアの意義を職員は周知している。身体拘束と虐待の違いの研修会を行い、普段の会話から言葉遣いを意識し、威圧的な態度になっていないか、全職員で再確認している。夜間のみ施錠で、職員は見守り支援に努めている。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で注意をできる様な雰囲気作りを務めている 細かな記録・報告の中でのチェック指導(言葉についても含む) 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在お一人の入居者様について成年後見制度利用の思案中である。しかし、これらの事業や制度に関して全ての職員が研修等に参加するのが難しい状況でもあり、十分な理解が皆出来ているとはいえない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約時、改定の際は文書等にて説明させて頂いている。御本人様・御家族様を交えて行ったり個別で行っている時もある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置がある 御家族様からも意見を頂いている 職員もその状況で必要な事があったり意見等あれば来設時や電話等で相談を行っている	玄関に苦情箱を設置し、重要事項説明書にも受付窓口を明記している。職員は家族の訪問時や電話連絡の際に、積極的に家族からの要望を聞くように努めている。今年度は外出案として芝居観劇の情報を得て、全員で観劇を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングや日々の申し送りを活用し意見を求めたり提案を聞く場がある。それらに対してまずは試験的にケアに取り入れられたり、それでうまく運ばば改善に繋がっているケースもある。しかし、報告・連絡・相談が確実に行き届いていないケースもある	月1回スタッフ会議では行事の検討や各利用者のケアプランの見直しを行っている。また、ホーム長を中心に統一したケアの改善を全職員で話し合い、必要に応じて職員の希望を反映する風通しのよい関係づくりに配慮している。キャリアパスの導入のアンケートを取り、職員の意向を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1回/年の昇給、2回/年の賞与で、小額でも評価の結果として表したいと思っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせ研修案内をしている 研修に参加した職員はミーティングや記録を活用し報告を行っているが、働きながらトレーニングしていく事は確実に進んでいるとはいえない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHのお茶会に伺ったり、当ホームの行事(夏祭や餅つき大会)等に同業者や地域の方々をお呼びしたりして定期的な交流がある。又、島原半島GH対抗風船パレー大会にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前より面会等で相談を受ける事もあり、入居されてからの心境の変化を見逃さず常に会話傾聴し受け止める努力を行いたい		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	数回の面接により、家族がどう思われているか等、話を聴く機会を設け受け止める努力を行いたい その場で返答ができない場合は電話や書面等で連絡を行い信頼関係を徐々に築いていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅サービスを利用している方は担当のケアマネージャー様、病院や施設に入院・入所されている方は担当者の意見も求め、その方に合う支援をしていくように、努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を摂ったり、外出したりと生活を共にする中で家族の様な関係を築いている様に思う (管理者の見解→昨年初期対応中の入居者様の変化がこの一年で劇的である事からの意見と思われる)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老の日や入居者様のお誕生日会等のレクリエーションの時間を設け、御家族様にも参加して頂き、入居者様と御家族様が会話できる機会を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多いため、散歩や地域の行事等に参加して頂く等、知人の方と出会う事が出来る機会を多く設けて行きたいと努力している	家族の協力のもと墓参りや法事に出かけたり、一時帰宅して盆や正月を自宅で過ごしている。事業所周辺の散歩や地域行事に参加して友人知人と再会があるなど交流を深めている。馴染みの美容室や喫茶店、店に買い物に行くなど馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	料理の切り込み作業や色々な作業等を手伝って頂き、入居者様同士での会話の機会を増やしていく様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となった時点で不安になられる御家族様へ状況に応じて細かく対応していくことを説明 病院での看取りとなったケースにおいては御家族様・親族・病院と密に連絡を取りギリギリまでできる限り協力させて頂く 退去後も御礼の手紙等やりとりさせて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と接する中で、入居者様の話に傾聴し行動を拝見しながら思いや意向、暮らししていく上での希望を信頼関係を築きながら絶えず探っている	日常の中で利用者に合わせた声かけをし、ケアの把握に努めている。夜勤やお風呂時に利用者の意向を聞き、信頼関係を深めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、寄り添いながら確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るなど工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から若い頃のお話や子育て、ご苦労された様子など引き出し、共感しながらその方が生きた年代に合わせた会話を心がけ、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックの実施・入浴時の身体を観察・食事量のチェック・表情等、一日過ごされた様子を申し送りにて把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別に担当者を決めており、細やかな個々の理解に努め、必要に応じて御家族様へ相談・意見をお聞きしながら、月1回のミーティング会議の際全職員で意見交換・対応策を話し合っている	利用者や家族には日々のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映している。3ヶ月毎にケアプランの目標を作成し、月1回のスタッフ会議でアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行い、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・ホーム日誌に心身の状態・出来事を記入し、日々の状況をわかるようにし、朝・夕の申し送りでの伝達を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様は入居者様の居室に宿泊でき、外泊や外出も希望に応じ対応している 入居者様の気分転換にドライブや衣類購入に出かけたり、ご近所で御家族様が経営されているお店へ通ったりされている 自治会との交流も柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から通っておられた老人福祉センターでの暮らに送迎したり、ご希望があれば通所リハや整骨院に送迎したり、市が行う健康診断には可能な方に限られるも、それぞれお連れする様に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が入居前より受診されており、その方をよく知っていらっしゃるかかりつけ医に継続して受診されている	かかりつけ医は継続しており、家族の意向で協力医への変更も行っている。職員は大村や諫早の精神科・整形外科へ同行する事もある。眼科は家族が付き添うため、通院後職員が連絡を取り情報を共有している。救急時は小浜病院が24時間受け入れる協力体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変や事故等の緊急時、訪問看護師に連絡し、指示の下受診や様子観察を行う受診を優先する場合も事後報告を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーを介し、又は医師や看護師に直接、情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年の評価後、御家族様へのアンケートを行い、ご本人様や御家族様の意志について等の聞き取りを行い話し合いに努めている	重度化及び看取りに関する指針がある。入居時に説明があり、段階に応じて改めて説明をし同意を得ている。医師と家族と事業所で話し合いの場を設けている。看取りの事例もある。職員は看取りに関する研修に行き、報告を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ依頼し、心肺蘇生技術やAEDの取り扱い方についての勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度消防署様協力の下避難訓練を行っている	年2回避難訓練を夜間想定も含め行っており、消防署立ち会いの訓練も行っている。初期消火や防火扉作動の確認なども実施している。地域の協力体制を現在確認中である。ただし、訓練の反省項目の改善策等が確認できず、災害時の対策もまだ行われていない。	地域及び地域消防団との連携が確認でき次第、体制整備や訓練への見学、参加を実施する事を期待したい。また、訓練の反省項目も改善に向けて検討する仕組みが望まれる。災害時の避難経路、備品の検討も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣は各個人の居室で行うようにし、入浴も一人ずつ、一人の職員で対応する様にしている 洗濯物に関しては、オムツカバー等は職員にてたたみ対応している 各個人、お名前呼びかける様にしている	個人情報に関する同意を得ており、職員も守秘義務徹底に取り組んでいる。利用者に関する内容の会話は事務室で行い、トイレや入浴時は利用者の希望によって同性介助で支援している。ただし、利用者との会話では声の大きさ、表現に配慮が必要な場面がある。	外部訪問者の多い事業所では、利用者との会話内容や声の大きさなどの配慮が求められるため、検討が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを伝えたいが言葉に出ない様な方には職員側から色々な言葉を出し、きっかけを作ったり、希望に副える様な雰囲気を作るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診予定の有無や人員によって日時などの調整が必要な場合もあるが、どうすれば可能かを考え支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室等地域のお店の協力もあり、お店まで足を運べない方には出向いて頂きセットして頂いたり、職員にて髪を整えたりできている 衣類も季節感・TPOに関しては職員と一緒に選ぶ等して自然に手助けが出来る様努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体重の増減や栄養・形態等、お一人お一人に合った介助法等職員全員が情報を共有出来る様努めている 食事を作る際には一緒に調理する等して頂いている	献立は利用者の嗜好や、過去の献立や感想を基に作成されている。職員は同じテーブルと一緒に食事をとり楽しみながら介助している。行事では外食や行事食を準備している。地元の献立も取り入れており、利用者の咀嚼に合わせた盛り付けなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の調整や好みを把握する様努めている 水分は摂取量が少ない方にはゼリー等にして代替品を用意する事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導もあり、毎食後歯磨きのお誘いをしている 行き届かない部分を訪問歯科の往診に頼っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おやつ前・食事前等時間を決めその都度声かけトイレ誘導を行う 又オムツ使用の方には時間を決めパッド交換(陰部洗浄)を行い、下着+パッド使用の方が長時間の外出の際には軽失禁用下着やリハビリパンツ等に交換頂くパッド装着がうまくいかない方には介助に入り尿量等の確認をさせて頂く 又個人の歩行力に合わせ日中はトイレ夜間はポータブルトイレと使い分けを行っている	排泄チェック表による時間誘導や利用者の仕様などからトイレ誘導を行っている。日中はトイレ座位での支援を行っている。個別の状況に応じてパッドの大きさや軽減の検討を行っており、軽減した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面ではなるべく食物繊維の多いメニューを多くし、水分補給の声かけも随時行っている 又リハビリや散歩等身体を動かして頂く機会を多く作る様心がけている 排便チェックを毎日行い必要に応じて医師に相談し薬を服用して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皮膚疾患の入居者様は水道水のお湯に入ってもらきその他の入居者様は温泉に入ってもらく又、介助を必要とされる方が多い為個人の希望時に入ってもらく事ができないが、少なくとも一週間に3回は入ってもらく様心がけている	毎日入浴の準備を行っており、ほぼ毎日入浴を行っている。拒否時は強制せず、その日の体調にも配慮して支援している。車椅子利用者も湯船につかる介助をしている。石けんなど個人の希望にも対応しており、入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜不眠だった方には2~3時間午睡を促す 又、夜間眠れない方には飲み物を提供したり談話等行いゆっくりとした時間を過ごして頂く 日中はなるべく活動して頂き、臥床時間を短くする		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には職員が同行し、医師からの指示を受診録へ記入する 又、申し送り等で受診内容・薬の作用・用法を説明し全職員が理解した上でケアに当たる様心がけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が得意としている事、又個々の能力に応じた作業を依頼し、作業終了後には感謝の気持ちを伝える 各入居者様の誕生日には誕生日会を開いたり父の日・母の日・敬老の日・クリスマス・餅つき等企画を立て行事を楽しんで頂く 又、近隣ではあるがドライブ外出を行い気分転換して頂く		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様から外出希望・帰宅希望があった際は出来る限り対応し職員も同行する 又、買物外出の声かけを行い近隣ではあるが外出の機会を多くする様努めている 又、近隣でのお祭や行事には出来る限りお誘いする様努めている	毎日自宅まで行かれたり、買い物やドライブに出掛けるなど本人の希望に添って支援している。車椅子利用者も外出しており、年間を通じて全員で初詣や花見、地域の広場に出かけている。島原半島のグループホームが集まる風船バレー大会にも全員で参加している。	

おばま温泉グループホーム湯之崎(ユニットえびす)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じ受診時や外出時(買物等)に職員の介助の下支払をして頂いている御家族様の要望にてホームでお金を預らせて頂いている場合、出納帳の記入を行い誤差が生じたり紛失しない様に努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様から贈り物があつたときの御礼の電話を職員が間に入りながらお話をさせて頂いている 御家族様より体調など近況について電話があつた際は自由に話して頂ける環境がある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節(鯉幟や七夕・クリスマスツリー等)に応じた装飾を行っている 又、ホーム行事等で撮られた写真や入居者様が育てられた花・ホームの通信等を掲示している	ユニット毎に季節間を演出する飾り付けを職員が提案し、利用者に生け花や手芸の壁飾りを任せるなど工夫している。各部屋やトイレなど利用者の目線で標識が設置され活動しやすくなっている。職員が換気、清掃を整理整頓されており、居心地のいい空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様で居室やリビングを自由に活用して頂いている 隣のユニットへ散歩に行き入居者様同士で会話を楽しまれている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や御位牌等の持込がある 又、安心して頂く為御家族様の写真を飾っている	利用者の馴染みの物の持ち込みは自由であり、位牌や筆筒、テレビなど持ち込まれている。ベッドや調度類の配置も利用者が自立活動しやすいように配置している。午前中に職員が換気、清掃を行っており、時には利用者も参加しており心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖使用者、車椅子使用者に対し、危険行為(周囲の安全確認を怠っている場合、杖使用無しで歩行する場合、杖を振る等)を防止する為、声かけ説明を行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎 (ユニットほてい)		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・会話を傾聴する際は常に入居者様の目線に合わせて行っている ・入居者様のできる事はなるべく御本人様にして頂いている ・入居者様の整容には出来るだけ気をつけている ・全ての入居者様に接する上で平等となる様気をつけている ・少しでも多く入浴して頂ける様努力している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの基本理念は職員いつでも確認可能であり入社時にも一度座学にて説明を行っている。しかし、まだ日の浅い職員を含んでの理念の共有・実践までには至っていないと思われる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事・催し物はできるだけ入居者様へ声かけ、お連れ出来る様心がけている。又、ホームでの催し物では自治会の方や近所の子供会等へ参加の呼びかけを行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在特別な活動はないが、外出や病院受診時等いつでも見学に来て頂ける様にしており、日々の日常や普段の生活をオープンに見て頂ける様にしており、町の方から質問等受けた際にはそのまま説明させて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催という事では確実には出来ていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居された新しい方々の落ち着かれるまでの支援を地域包括支援センターへ依頼、センターの職員の方には色々とお世話になっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての実践者研修に参加内容をホームへ持ち帰り、全職員にて情報の共有を行い理解・実践に努めているも、新しい職員も増え、新たにもう一度施設内研修を行う必要はあると思われる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とみなされる行為がない様全職員にて努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用中の入居者様もおられ、更にキーパーソンとなられる御家族様がいない入居者様も数人おられる為今後もっと成年後見制度等について理解を深めていく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者(当事者)様が同席という事は殆どないが、御家族様へ説明を行い理解・納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの要望には頂いた時点より速やかに全職員に伝わるようにし、実践する様努めているものの、まだこれを完全に実施出来ているとは言えない状態であると思われる より一層の努力が必要		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見を求める機会はないが、現場に関わる業務内容や物品に関しては職員の意見をまず優先的に通す様にしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1回/年の昇給、2回/年の賞与で、小額でも評価の結果として表したいと思っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量・技量・最終的な目標等を出来るだけ把握し、一人ひとりのレベルに合わせた研修の機会を設ける様に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内のみならず、市外のグループホームで行う催し物にご希望の入居者様をお連れする 又、職員同士の交流も持てる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様が何に不安を抱かれているか、御本人様・御家族様共にお話をお聴きし、最善の対応を相談させて頂く 御自宅を心配される入居者様には御家族様の面会を通して安心して頂く様協力をお願いする 先ずは信頼関係の構築を目指していく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に突然の入居に戸惑われる場合等は少しずつ慣れて頂ける様に体験入居をして頂いたり、急遽入居をご希望された際に出来る限りの事をさせて頂く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居と同時に毎日の病院受診やリハビリ受診を御家族様に代わり引き受ける等、当ホームにて出来る事であればなるべく対応できる様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様お一人お一人にできる事をして頂ける様に声かけをする努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加を呼びかけたりして、御家族様の来設を声かけしている 会話中に御家族様のお名前を出したり、写真等で思い出して頂ける様に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があればお墓参りやご自宅への帰宅等、お連れしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の話を傾聴する時間を作る様に努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方には、時々面会を行い洗濯やオムツ類の補充等を引き続き協力させて頂く事で関係の継続を図り、少しでも御家族様の負担を軽減できる様にと思っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を傾聴し、御本人様の希望・意向の把握は行っているが、職員の都合によるケアを行っている場合もある		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様や御家族様から生活環境の情報を収集し、生活の中で趣味や得意分野を活かして頂ける様努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックで各々の体調を把握し、無理なく一日を過ごして頂く工夫をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例ミーティングにて話し合いを行い、介護計画が作成されている その時その時の状況に合わせたケアの方法を話し合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人日誌に記入する事で記録されているが、介護計画の見直しに十分活かされているとは言えない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊は御本人様・御家族様の要望に応じて対応し、出来る限りの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	余り地域資源の利用は出来ていないが、地域のイベント等には出来るだけ参加して頂く様にしており、その中で馴染みの顔に再会されたりして、喜ばれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様又は御家族様希望の病院等があればご希望通りに対応している 入居後、緊急受診の必要な場合、その時々に応じてかかりつけ医、若しくは救急病院・専門医を受診し、その都度御家族様へ報告している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師来設され、体調の報告・相談等をしている 又、バイタルチェックをされながら、直接入居者様から体調等を聞いて頂いており、何かあれば教えて頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の送迎はもちろんの事、入院中はお見舞に行き、看護師へ経過を尋ねている 必要があれば連絡を頂きすぐに届け、洗濯物があれば引き取り再び届けている 入院中も入居者様・看護師と常に接する様になっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と施設長との間で話し合い理解を得ており、その結果の報告を受けている 緊急時に備えて小浜消防署の指導の下救急救命の訓練等を行い、救急搬送時にも対応できるようにしていると共に、救急搬送時のテーブル・椅子等の位置確認を行いスムーズに搬送できるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊により初期対応の訓練を全員受けている 実際には対応・処置等の経験はないが、今後の為にも実践力を身に付けたいと思っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	小浜消防署指導の下、避難訓練を行い入居者様も可能な限り参加して頂いている 現在まで災害等は起こっていないがいざという時の為入居者様の状態と居場所の確認、又災害時の避難場所・ルートの確認・誘導の仕方等を細かく調べておきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる様な会話の場合は居室にて傾聴する様にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは声かけにて行動の希望を聞き、返答がなければ決定の返答を頂ける様に、質問の方法を工夫する様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診の有無・職員の不足等により入居者様の希望に副えない場合もあるが、常に努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に心がけている (全職員ができていない)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の体調をみて、野菜の切り込み作業・食器洗いを手伝って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人に合わせた食事量・水分量を考え提供・摂取して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の力に応じ、職員の介助が必要な方にはお付きして清潔保持に心がけている		

おばま温泉グループホーム湯之崎(ユニットほてい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない場合は時間を見てトイレ誘導し、訴えができる方には声をかけて頂く様にしている 入居者様によっては言葉でトイレ訴えが出来ない方もおられるが、何らかの合図が見られた場合声かけしトイレ誘導している 現在パット使用の方もおられるが全員トイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期受診時に主治医へ排便状況を報告し、お薬を処方して頂いている なるべく水分補給を日頃より声かけし摂取して頂いており、主治医の許可を得て排便あった日には整腸剤を調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は職員不足に加え病院受診がほぼ毎日あり、入居者様の希望通りにはできていない その中で入浴表を作り最終入浴日をチェック、職員に時間を作れる様皆で協力し一人でも多く入浴して頂ける様心がけている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	殆どの方が昼間臥床希望あるが、ご希望通りに対応すると寝たきりになる恐れがある為、午前・午後と1~2時間程午睡して頂いている 夜は安眠出来たか翌日入居者様に確認したり、逆に眠れない方には無理に臥床をお勧めせずゆっくりと会話したりご希望の飲物を準備したりして寄り添っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている 毎食前後の薬を日付をつけ食事前、後に手渡ししている 又、薬の処方に変更あった場合特に様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部入居者様には少しは出来ていると思うが、殆ど出来ていないと思う なるべく笑顔になって頂く為会話を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	殆どできていない 時折外出の声かけ行方もタイミングが合わないのか拒否される事もある 又、入居者様の体力的な事もあると思われる		

おばま温泉グループホーム湯之崎(ユニットほてい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお一人お一人の力に合わせて、金銭の管理を行っている 財布やお金を持っているという行為に安心感を得られる方もおられ、その管理を一緒に行う事で財布の所持を継続できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があればその時に対応している 又、御家族様からのお電話も子機を使い好きな場所でお話ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の多くを過ごされる場所で、テレビが見えにくい等の訴えがあった場合等、職員にて相談し全ての方がテレビを無理なく見える様に配置を検討する等工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御自分の希望を自由に語られる方が少ない 為職員にて居場所を決めている事の方が多いが、御自分で移動可能な方は自由に他入居者を訪室されたり、隣に座って話をされたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様のご自宅に近い環境になる様に心がけて御家族様の写真や趣味の物を飾る等、心地よい空間に近づける様努めている 又、歩行不安定な方に対しては転倒の危険や障害物がないか気をつけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視野障害・視力障害のある方や認知症進行の著しい入居者様のご自身の居室やトイレ・リビング等を身体で覚えておられる為なるべく配置を変える事無く今後も安全を第一に考えていきたい		